

# IAGG 会議に寄せて：学際的アプローチの推進

マサコ・オサコ Ph.D.

ILCグローバル・アライアンス事務局長(在米国)

## ■ 学際的な活動を進めるIAGG

第19回 国際老年学会 International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG)が、2009年7月5日から7日までパリで開催された。

IAGGは、1950年7月の設立以来、常に世界にとって重要な課題に取り組んできた。高齢者サービスの計画、管理、提供を担う有能な人材育成の促進を目指す一方、国連が主導する「研究研修の推進、および社会政策・行動に向けた国際的基盤の整備のための情報・知識交換」を積極的に支援してきた。

本年度は、「健康・長寿と富」という基調テーマが設定された。これは、かつては社会の重荷となると考えられていた長寿化や高齢人口の増加は、叡智の結集や高齢者の社会参加によってむしろ社会の進歩の原動力になることを明らかにするというコンセプトに基づいている。本会議には、約70カ国から7,000人余りの多彩な分野の参加者が集まった。

これだけ複雑化、多様化した少子高齢社会においては、医学や介護など一つ分野では到底カバーしきれない課題が数多くある。産官学の枠を超え、さらに学問の分野の枠を超えた老年学研究が不可欠である。主催者は、「本会議は、ケアや研究に携わる医師、看護師、心理学者、生物学者、財務官、施設長など老年学に関心を持つこれらすべての参加者にとって、意見を交換し、研究・活動を推進する好機となるであろう」と強調した。

## ■ 米国および英国における老年学

IAGGはこのように、長寿化や高齢人口の増加にともなう諸問題に対応し、豊かな高齢社会を作り上げていくためには学際的でなければならないと考えている。すなわち、各学問分野を総合する「老年学」の確立と定着がそれぞれの国と地域で進んでいくことが求められている。

欧米では主要な全国規模の老年学会の任務をどのように定義しているのだろうか？

米国では、1945年に設立された米国老年学会 Gerontological Society of America (GSA) が、エイジング分野で活動する専門家を対象とする最も包括的な連合体で

ある。GSAは、「エイジング研究の推進と共に、研究者、政策立案者、一般市民への情報普及が任務である」としている。そして研究の推進に当たっては、「生物学者、保健医療専門家、政策立案者、行動社会学者による共同研究」を促進している。「Healthy Aging（健康に年を重ねること）を効果的に推進するには、多様な領域での学際的研究が最善の方法である」からである。

1971年に設立された英国老年学会 British Society of Gerontology (BSG) の任務もGSAに極めて近い。つまり、「エイジング分野の研究者その他の関係者に学際的フォーラムを提供すること」である。BSGは、「会議への参加によって得られるひとつの利点は、老年学や老年医学の教育者、研究者、従事者が相互に種々多様なコンタクトを図ることができる点である」としている。

## ■ ILCグローバル・アライアンスの取り組み

グローバル・アライアンスでは、1993年の第15回大会から連続してIAGGにおいてシンポジウムを主催してきた。本年は、「人口高齢化：人類のための偉大な業績—ILCの展望」を大きなテーマに掲げ、「1. 健康長寿と経済発展」「2. 健康的な加齢と予防」「3. 高齢化問題における男女間格差」「4. 世界における人権の擁護と年齢差別とのたたかい」といった4つのセッションからなるシンポジウムを開催した。多岐にわたるセッションテーマに見られるように、これはまさに学際的な試みであり、加盟11カ国のILCの総力を挙げた取り組みとなっている。

ILC日本では1990年の設立当初から日本における老年学の確立について研究および提言を続けてきているが、最近、日本国内でも学際的な取り組みの重要性が特に注目されている。例えば、日本老年医学会、日本老年社会学会など各種学会の活動に加え、桜美林大学大学院には学際的な老年学講座があり、また本年4月には東京大学で種々の分野の研究者が参加して「高齢社会総合研究機構」が新設された。私たちはさらに日本の老年学が発展し社会に大きな影響力を発揮していくことを期待している。